



**ききぎょう通信**

2018年1月(平成30年)

発行 桔梗が丘自治連合協議会  
 連絡先 桔梗が丘市民センター  
 TEL 65-1206  
 FAX 65-1206  
 Ex-ル info@kikyogaoka.jp  
 5,748世帯・13,865人  
 (2017年12月1日現在)

### 駐車場が屋台村

## 第2回ほつとまちフェスタ

### お助けセンターが送迎

桔梗が丘自治連合協議会が推進している「桔梗が丘「ほつとまち」構想」の活動を、地域の住民に披露するフェスタが昨年11月19日に開催され、多くの人が桔梗が丘市民センターに会場した。今回はセンターの駐車場全

場でのピンホールカメラなどが好評だった。センターの入り口前ではスタンプリーやききぎょう農楽園の収穫祭が人を集めた。駐車場は市立桔梗が丘小学校に用意して、お助けセンターの絆号が会場への送迎を担い40回走った。



笑顔で足湯ポカポカ



健康に自信がついた

桔梗の森公園会場では、甘酒のふるまいと、コナラ(2本)、エゴノキ、カツラ、たいかつつじ、コブシ(2本)が快適環境部会と桔梗が丘みどりの会の手で植樹された。

センターの室内では、一階のギャラリィで協議会の部会とプロジェクト事業の活動紹介があり、第13回ききぎょう健康まつりが多数の部屋で開催され相談や測定を受けてい

た。地域福祉部会の脳リフレッシュコーナーやほつとまち茶房ききぎょうの歌声喫茶、今年3月で閉校する名張桔梗丘高校の写真・資料による45年の軌跡も好評で、最後のピンゴ大会では幸運を競って終了した。今年のフェスタの来場者

は、2151人(主催者集計)で、買い物、健康チェックや相談などを楽しんだ。

### お助けセンターの

### 実践を研修

### 石山学区福祉協が来訪

平安時代に紫式部が「源氏物語」を参籠(さんろう)中に起筆したと伝説の、石山寺を有する滋賀県大津市・石山学区社会福祉協議会の36人が、昨年12月8日に桔梗が丘市民センターを視察研修に訪れた。

### 平成三十年度

## 会長年頭挨拶



桔梗が丘自治連合協議会 会長 辻森保蔵

辻森保蔵

新年明けましておめでとうございます。地域の皆さまには、恙なく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げま

す。協議会各自治会(区)、部会・委員会のボランティア活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。本年も桔梗が丘地域ビジョン「桔梗が丘「ほつとまち」構想」の推進の継続と地域の課題に取り組んでいきます。「ほつとまち」構想で述べられていた六つの基本指針(元

気賑わい、安心安全、生きがい健康、緑環境、自立規範、子ども未来)があります。今年は特に「子ども未来「ほつとまち」」で目指している、子どもたちが健やかに育ち、権利が守られ、知・徳・体の向上により、子ども・未来が感じられるまち創りを重点課題として進めたく思います。皆さまの「て」と「こえ」を

もって「集い」情報を共有し、「地域で出来る事は地域で」をモットーに行政や関係団体と協議を進め、連携・協働を図り推進します。皆さまのなお一層のご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。皆さまのご健勝とご発展をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

同学区は人口1万4百余人、約4千8百世帯、自治会数11、高齢化率28、4%。お助けセンターの立ち上げに、桔梗が丘の実践を学ぶのが目的で来訪した。

みんなのおかげで

## ほっとまち茶房ききょうが5周年

桔梗が丘公民館（現市民センター）のロビーに、コミュニティ・カフェ「ほっとまち茶房ききょう」が登場したのは、さかのぼること5年。昨年12月2日に5周年記念イベントを開催し、ファンの125人が長き営業を祝った。

大講堂での祭典は「歌声喫茶・拡大版」から始まった。「桔梗ハーモニカ愛好会」と地元

バンド「シリウス」の伴奏で、青春曲、歌謡曲などを中心に40曲近くを元気に歌い続けた。歌唱に合わせて踊る人まみれが出た。

プログラムは「マジック」「バリバリ体操」「ピンゴゲム」と続き「ほっとまち茶房ききょう」がいつまでも続くことを全員で祈った。

この茶房は、桔梗が丘自治



5周年を祝う125人のファン

連合協議会が「ほっとまち構想」を策定し、プロジェクト事業の先陣に選んだ。住民にくつろぐ場所を提供し、ふれあいと交流を深めてもらう願いでスタートした。

開店までには関係者やスタッフ、講演会や実動店で知識を蓄える一方、店舗の設定や、材料の仕入れから販売までの収支などを研鑽し続けた。

開店からのスタッフは「未経験者の集まりで試行錯誤の連続だった。無事に5周年を迎えられたのは、お客さまに多くのことを教わったことや、ボランティアのスタッフや歌声喫茶で演奏を気軽に引き受けてくれるなど、みなさんのおかげ」と当時を振り返る。

## 今年も元気に71人

### グループホーム交流会

昨年11月12日、桔梗が丘地区グループホームのひとと民生委員児童委員らの交流会が桔梗が丘市民センターで開催。支援者や来賓者らも加わって71人が出席した。毎年の恒例行事で今年も第16回。

最初は「みんなで運動」で身



参加者が学ぶツツの観測

## 流星群や宇宙ステを楽しむ 市民センターの天体観測会

毎年9月に開催される桔梗が丘市民センター主催の「天体観測会」が、昨年9月は空が雲におおわれて順延となり、11月25日に34人の参加者で開催された。例年の9月の観測

では月と土星だったが、11月は月と流星群が主人公になった。アマチュア級の観測クラブ「アストロフォーラム」が座学と観測の講師を務めた。

市民センターでの座学のあと市立桔梗が丘小学校に移り観測を始めた。参加者は、月に大口径の天体望遠鏡を講師にセツトしてもらい、恐る恐る望遠鏡をのぞくと同時に「ヤッター」「宇宙ステーションが見える」との講師の案内で東の空を見ると、肉眼で見える物体が動いている。数秒だったが突然の出現は、嬉しい「おみよげ」だった。

毎回参加しているという男性は「星の名前は変わらないけれど、逢う度に違う顔がたまらない」と何度も望遠鏡をのぞいていた。



二胡の伴奏で愛唱歌